

学級活動における防災教育の授業づくり

高知県教育委員会事務局 学校安全対策課

「高知県安全教育プログラム」の活用についての講話後、演習では、各グループで1単位時間の指導計画を作成した。

高知県安全教育プログラム

「いかなる状況でも子どもたちを死なせない」

- ・ 自ら判断し的確に行動できる力を育てる
- ・ 地域社会の安全に貢献しようとする心を育てる

* 避難訓練はより実践的なものにする。
人間は訓練したようにしか動けない！

すべての学校で防災教育の徹底！

- ★ 避難訓練と学習の関連！
- ★ 防災教育全体計画の作成と年間指導計画への位置付け！
- ★ 年間3～5時間以上の授業を！
- ★ 年間3回以上の避難訓練を！
- ★ 保護者や地域とともに！

「防災の授業づくり」

防災をテーマとした「学級活動(2)」「ホームルーム活動(2)」の1単位時間の指導計画を作成。「非常用持ち出し袋について」「体育大会での避難のイメージ」「〇〇〇で地震が起きたら」などたくさんの指導計画が提案された。



情報提供・説明

○ 高知地方気象台

- ・ 気象庁ワークショップ「経験したことのない大雨 その時 どうする？」の運営マニュアルや防災啓発ビデオが気象庁のHPから入手可能。
- ・ 仕掛け絵本「なんかいじしんからいのちをまもろう」作成用データの提供（高知地方気象台HPから入手可能）や出前講座を実施。

○ 高知県土木部防災砂防課

- ・ 防災学習用データを各学校へ配付
- ・ 防災学習用データを基本とした講師の派遣

○ 日本赤十字社高知県支部事業推進課

- ・ 防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」（テキスト【指導案】、DVD【映像】、CD-R【教材】）の配付
- ・ 出前講座の実施

DIG・命の道を切り拓く～災害図上訓練～ 講師：NPO高知市民会議 山崎 水紀夫 理事

■ 演習 DIG（ディグ）：大きな地図を仲間と囲んで災害について想像を働かせるゲーム



〈研修のねらい〉

- 1 災害を知る
 - ・ 地震、津波、水害、土砂災害の性質を知る
- 2 地域の強みを高めて、弱みを小さくする
 - ・ 地域を知る、人を知る
- 3 誤った情報は危険を増大させることを知る
 - ・ 台風23号（H16）、釜石の悲劇
- 4 耐震・家具固定を周知する
 - ・ 避難路、避難タワーのハード面で安心するのは危険
- 5 自分の命を守ることに主体的になること
 - ・ 地域ではマイ避難路、マイ避難所を考える

〈流れ〉

- 1 地図を持ってまち歩きでチェックする
 - ・ 危険箇所、安全な場所・物、自然環境や歴史・文化にかかわる事
- 2 参加者の情報と知恵を大きな地図に書き込む
 - ・ 地域の歴史や文化にまで広げる
- 3 地図をもとに話し合い、成果を地域で共有する
 - * テーマ設定が重要（災害・日時・時間軸、場所、状況）

〈受講者の感想〉

- ・ 高知県安全教育プログラムを熟読して、年間5回以上の防災学習の位置付けを再考してみたい。
- ・ DIGを行い、同じ校区の先生方と話し合うことで、さまざまな視点から防災について考えることができた。
- ・ まずは、自分にできることを考えることが大切だと思った。「今すぐできること」を実行し、生徒にも考えさせたい。
- ・ 高知地方気象台や防災砂防課にも防災教育に使えるツールがあることを知ることができた。上手に活用して、子どもたちの知識や意識付けにつなげていきたい。